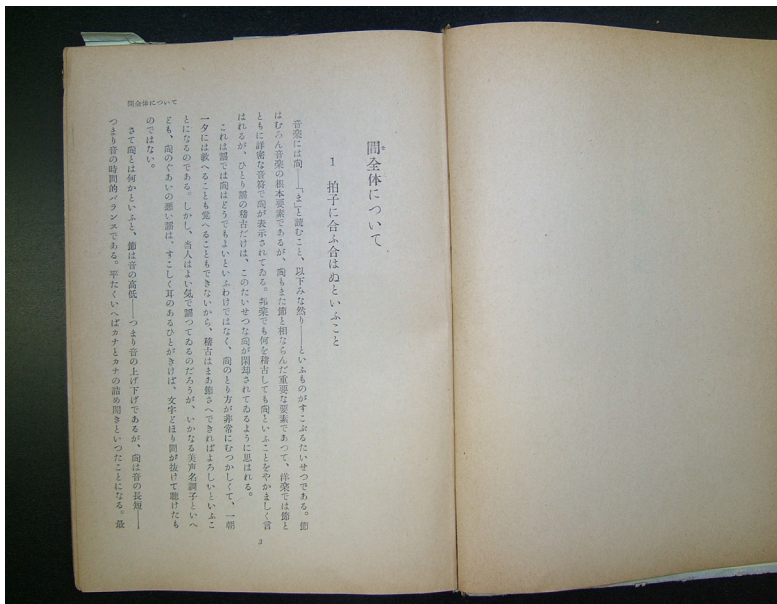


三宅 穂一 『拍子精解』

従来の書物の多くが「拍子当りなるものを理論的に説くだけ」であり「実際問題として役に立たない」という立場から出発する三宅は、本書では「拍子なるものの根本観念と、それが実際にどう謡はれるか」に焦点をあてると宣言する(序)。総説においては、拍子の運用、とくに、乗る／乗らぬ、ツツケ謡／三地謡に焦点があてられ、さらに素謡であっても拍子が重要との論を展開する。拍子当りの網羅的、体系的解説をせず、運用法に焦点をあてたのは、謡の拍子教育における一つの見識であった。版を重ねた所以だろう。



標題 内題：―

標題紙：拍子精解

奥附：拍子精解

その他：拍子精解(表紙・背)

著者 奥附：三宅穂一

その他の場所：三宅穂一(標題紙・序・

表紙・背)

出版 版次：第一版

出版地：東京

出版社：檜書店

出版年：昭和29(1954)

その他の場所：序 昭和29(1954)

形態 冊数：一冊 頁数：三二頁十二五頁

寸法：22×16(cm)

状態 写本版本の別：版本 現物複写の別：現物

備考 巻末に「附图」(二五頁)。